

ツバル・ニウタオ島の饗宴に現れる社会関係 荒木 晴香 (広島大学大学院)

1. はじめに

南太平洋の極小国家ツバルは近年、海面上昇によって「地球上で最初に海に沈む国」として、先進諸国からの大きな関心を集めた。この「海に沈む」という説に対する反論として、地形学 (Yamano et al. 2007) や、砂浜を形成する有孔虫の研究 (小林泉 2008)、地球温暖化にまつわる言説の影響に関する研究 (小林誠 2008a, b) などがある。しかしながら、そうした注目を集める要素とは関係のない、現代のツバルにおける日常の社会関係をあつかった研究はほとんど見られない。

本稿では、現代のツバル社会を語る上でははずす事のできない要素として饗宴に注目した。ツバル、ニウタオ島の人々は年間を通して、年中行事、人生儀礼、教会や学校などのコミュニティごとのパーティなど、さまざまな饗宴を催す。彼らは日々その話題に花を咲かせ、その準備に追われ、成功裏に終わらせるために苦心し、そしてまた次の饗宴に備える。ツバルは国連の認定した後開発途上国であり、経済的自立の困難な国家である。このような経済的にも自然環境的にも決して豊かとは言えない島の中で、大規模な饗宴を催すことは、資源や財産を一時に大量に消費することを伴う。それは一見すると、傍目には無駄とも思える行為にも映る。

以下、2節では調査地の背景を概観する。続いて3節で、ニウタオ島で催される饗宴について全体像を示し、最後の4節で饗宴の具体的事例をあげ、若干の考察を述べる。

2. 調査地の背景

ツバルはポリネシアの西端に位置する独立国家である。南北に飛び石状に連なる5つの環礁島と4つの珊瑚礁島からなる。島々は総じて小さく、国土の総面積は26平方km¹しかない。最も高い場所でも海拔5メートル程度と低く、河川や淡水の湖沼はなく、生活用水はタンクに溜めた雨水に頼っている。2002年のツバルの総人口は9,561人²でその約半数の4,492人が首都に集中している。宗教はキリスト教徒がほとんどで、ツバル国教会派 (EKT)³が91%、セブンスデイ・アドベンチスト (SDA) が2%などとなっている⁴。

2008年のツバルの国民総所得 (GNI) は約0.3億USドルで、サモアの7.8億USドル、トンガの4億USドル、キリバスの3.5億USドルと比べてもかなり低いことがわかる。しかし、1人当たり国民総所得 (GNI) を見てみると、約3,213USドルとなっており、これはサモア

1 世界の国の中で4番目に小さい。

2 バチカンに次ぎ、世界の国の中で2番目に少ない。

3 Ekalesia Kelisiano Tuvalu Church=ツバル国教会。イギリス国教会系。

4以上の統計資料はすべてTUVALU 2002 Population and Housing Census Volume1-Analytical Reportによる。

の2,911USドル、トンガの2,930USドル、キリバスの1,442USドル⁵と比べて高くなっている。民族の歴史としては、今から2000～1000年前にサモアから東フツナやトケラウを経由して移住した人々が最初の居住者であるとされる。1865年にキリスト教がサモアよりもたらされ、キリスト教化が進んだ。

ニウタオ島は首都フナフチから北へ約330kmの位置にある、面積2.53平方km、周囲約7kmの平坦な島である。首都からは月に1～2便ある貨客船で20時間ほどかかる。人口は663人、15歳以上人口は532人、世帯数は143世帯という小さな島である。島民の生業経済は主に農業、漁業、家畜に依っている。現金収入については、無収入世帯18世帯、日雇い43世帯、自営業3世帯、ハンディクラフト16世帯、送金58世帯⁶などとなっている。

主食は米、小麦粉、タロイモ、ココナツ、魚、ブレッドフルーツ、バナナなどで、米と小麦粉は商店で購入する。タロイモなど島の伝統的作物に加え、近年ジャガイモ、トマト、トウモロコシ、キュウリ、スイカなどの栽培がおこなわれている。

ニウタオの島社会で最も重要な社会単位となるのが、クリア Kulia、テアバ Teava という2つの地域区分である。これはフェイツー *feitu* と呼ばれるもので、クリア側・テアバ側という意味である。この区分は、踊りや歌を競い合ったり、饗宴を行う単位の一つとなる。さらにジャーマニ、ルシア、ジャパニ、ブリタニアという4つの集団があり、これは教会への寄付の単位として始まったものである。

島での生活の中心となるのが、マネアパ *maneapa* ⁷あるいはファレ・カウプレ *fale-kaupule* ⁸と呼ばれる集会所である。ニウタオには全部で5つの集会所があり、それぞれ島全体のもの、テアバのもの、ジャーマニのもの、ルシアのもの、教会のものである。これらの集会所は饗宴のほか、会議、ワークショップ、共同労働、ナイトクラブなどの場としても利用される。

島の行政については、村役場であるカウプレ *kaupule* がおこなうが、重要な事柄については、長老たちによる合議によって決められる。島民の90%以上はツバル国教会の信者であり、セブンスデイ・アドベンチストとバハイ教の信者が数世帯いる。島の年中行事の多くはツバル国教会と深く関係しており、それらの行事にはツバル国教会信者でない者は基本的に参加しない。ツバルでは牧師は非常に高い尊敬を受ける存在であるが、ニウタオにおいては多少事情が異なる。ニウタオにはアリキ *aliki* と呼ばれるチーフがおり、島で最高の地位にあるのは、ウル・アリキ *ulu aliki* と呼ばれる最高位アリキであり、牧師はその次とされている。他にウル・アリキを補佐する3人のアリキがいるが、日常生活でアリキの存在を意識することはあまりない。アリキの存在と役割が最も可視化されるのが、

⁵ United Nations Statistics Division, "UN data," (<http://data.un.org/Default.aspx>)

⁶ 以上のデータはすべてTUVALU 2002 Population and Housing Census Administrative Report and Basic Tablesによる。

⁷ キリバス語に由来する (Chambers 1984:3)。

⁸ *fale* とは家、家屋を意味し、*kaupule* とは議会や指導者、支配者を意味する (Jackson 2001)。

集落の中心にある集会所、ファレ・カウプレ内においてである。この集会所内での社会関係の可視化の様態を描くために、2種類の年中行事を詳しく見ていくこととする。

3. ファカアラ——饗宴

ファカアラ *fakaala* というツバル語は、①人々が共に食事をし、特別な出来事を祝うために集会所に集まる島の饗宴、②饗宴のために用意される食事、を指す語であるとされる (Jackson 2001)。しかし筆者が観察した限りでは、集会所だけではなく民家で催される場合もファカアラと呼ばれるため、ここではファカアラを、人びとが共に食事をし、特別な出来事を祝うために集会所または民家に集まる島の饗宴、と定義することとしたい。

風間は『窮乏の民族誌』のなかで、キリバス社会の饗宴について論じている。風間によると、饗宴を構成するのは a) 共食、b) 贈与、c) 歌や踊りなどの遊び、d) 食料分配で、これらの要素の適当な組み合わせによって成り立っているとする (風間 2003)。この定義はニウタオの饗宴についても当てはめることができる。

3-1. 饗宴の頻度

筆者が滞在した2006年11月から2008年3月初頭までの16カ月間に観察しえた饗宴の事例は計66件あった。1件の饗宴が数日あるいは数週間に及ぶ場合もあり、また同日に数か所で開催される場合もあった。筆者が知りえた限りの饗宴を目的によって分類し、月別の頻度を数えると図1のようになる⁹。2007年11月は図中には示していないが、筆者の不在中にも年中行事、結婚式、葬式などがおこなわれていた。このように饗宴が催されない月は無い。

また1件の饗宴が数日、場合によっては数週間に及ぶ場合もある。図2は各月ごとに饗宴が開催されていた延べ日数を表わす。例えば図1の2007年1月を見ると、年中行事1件、歓送迎1件の計2件のみとなっている。ところが、この年中行事が7日間、歓送迎の饗宴が31日間続いたため、図2では延べ日数38日間となっている。人生儀礼については島内で数件が同時進行で数日間、数週間続くことが多く、正確なデータを示すことができないためここには含めていない。したがってほとんどの月において月間の3分の1以上の日数で饗宴がおこなわれていることになる。当然、すべての饗宴に島のすべての世帯が参加するわけではないが、これに人生儀礼を加えると、ニウタオでは饗宴が島生活のかんりの部分を占めていると言える。

⁹ 筆者は2007年10月～11月にかけてビザ更新のため首都へいっており、また2008年3月4日にニウタオ島を去ったので、2007年10月は11日間、11月は13日間、2008年3月は3日間の滞在中の件数。

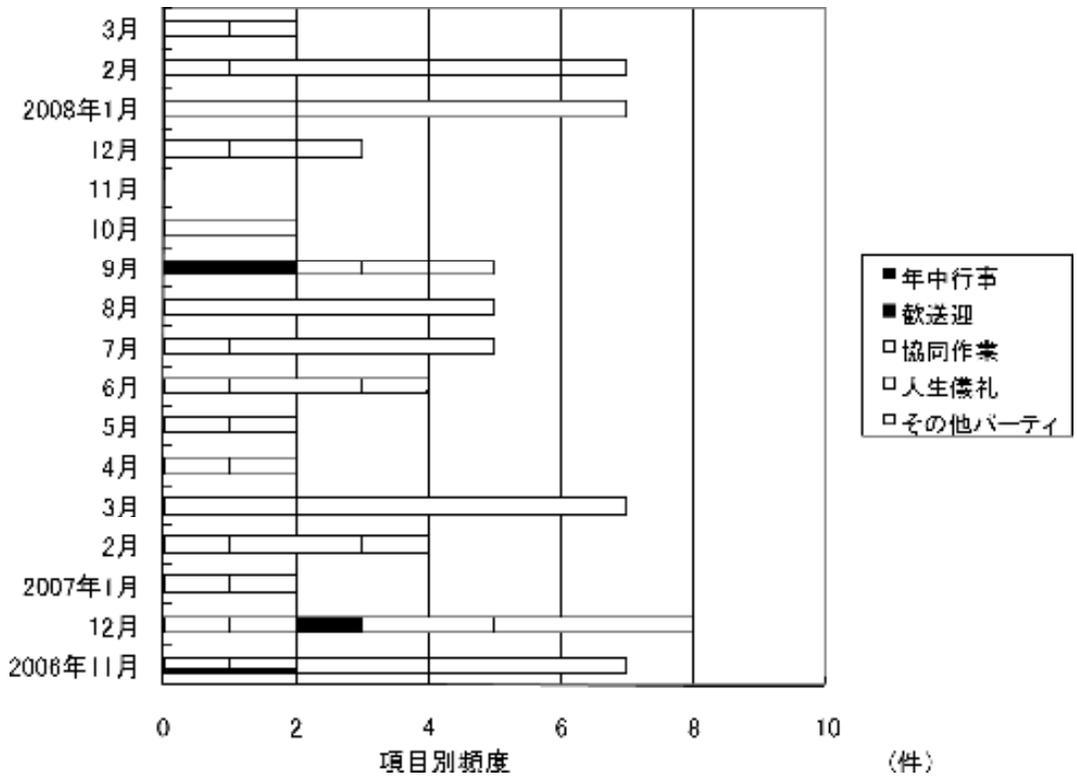


図1：ニウタオ饗宴月別頻度

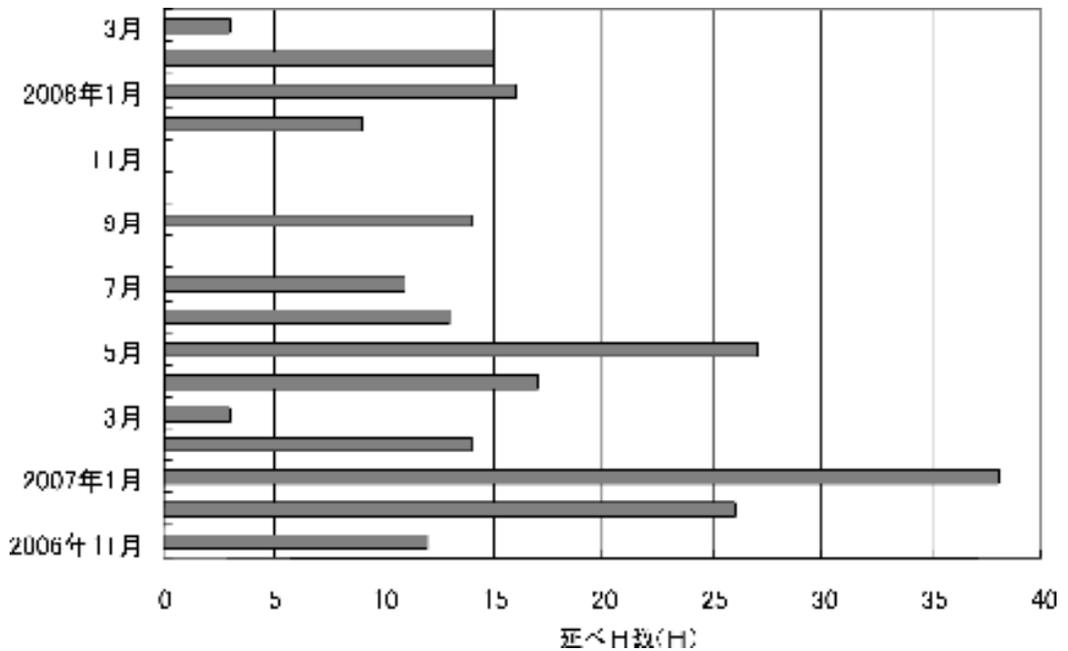


図2：ニウタオ饗宴延べ日数

表 1 : ニウタオで催される主な饗宴

	例	日数
年中行事	アソ・ラシ (クリスマスと新年を祝う)	12月25日から数週間
	アソ・ファフィネ (女の日の祭り)	2月第1水曜日から11日間
	賛美歌の日	3月の2日間
	アソ・セテマ (9月の日の祭り) など	9月17日から8日間
歓送迎	4年に一度移動する牧師の歓迎、送迎	数日間
	政府関係者などの来賓の歓迎、送迎など	船のスケジュールによる
協同作業	教会、牧師住居周辺、集会所などの掃除や補修、建設などの奉仕作業と共食など	作業にかかる日数による
人生儀礼	結婚式	1日から数週間
	葬式	1日から数週間
	満1歳の誕生日など	1日から数日
その他	役場や学校などが主催するクリスマスパーティや卒業祝いなど	1～2日

3-2. 饗宴の種類

ニウタオで催された饗宴の主なものをまとめたものが表1である。年中行事のうちもっとも期間が長く規模が大きいのが、アソ・ラシ *aso lasi*¹⁰と呼ばれるものである。アソ・ラシはクリスマスと新年を祝うために開かれる饗宴で、島のほとんどの人口が直接、間接的に参加する。12月25日から翌年にかけて数週間にわたりおこなわれる。アソ・ファフィネ *aso fafine*¹¹は女性たちが主役となり、毎年2月の第1水曜日から11日間おこなわれる。讃美歌の日は聖歌隊のための饗宴で、3月に2日間おこなわれる。これら3種の饗宴は集落の中心にある一番大きなファレ・カウプレ (集会所) でおこなわれる。アソ・セテマ *aso Setema*¹²は9月の日という意味であるが、これは島民の寄付金によって教会が建立されたことを記念して始まったものである。寄付金を集める単位として、ジャーマニ、ロシア、ジャパニ、ブリタニアという4つの集団があり、それぞれの集会所で8日間おこなわれる。ただしジャパニとブリタニアは集会所を持っていないため、テアバの集会所と成員の家をそれぞれ使用している。

歓送迎のための饗宴は毎年おこなわれるわけではない。政府関係者や、海外に移住した人々が島を訪れた際に催される。また、ツバル国教会の牧師は4年ごとに任地を替わらなければならない。4年間共に過ごした牧師一家を送り出すために、信者たちは大量の贈り

¹⁰ *aso* は日、*lasi* は大きいを意味する。

¹¹ *aso* は日、*fafine* は女を意味する。

¹² *aso* は日、*Setema* は September=9月を意味する。

物を用意し、数日間にわたり盛大な饗宴を催す。そして数週間後、新しい牧師が赴任してくると、一家を歓迎するための饗宴が催される。

ニウタオ島で生活していると、さまざまな協同作業に参加する機会がある。教会や牧師一家の住宅周辺、集会所の掃除や補修、建設などの作業は多くの場合無償奉仕である。これらの労働に対する返礼として、女性コミュニティが食事を用意することがある。このような場合、作業途中でも時間になれば集合して参加している者みなで共に食事をする。

結婚式、葬式、赤ちゃんの誕生などの人生儀礼にまつわる饗宴は、ファカラベラベ *fakalavelave* とも呼ばれる。ファカラベラベとは忙しいという意味であり、文字通り、これらの饗宴を主催する世帯は大変忙しくなる。これらは集会所でおこなわれることもあるが、各家でおこなわれることもある。

これら以外に、役場や学校のコミュニティ、親しい世帯同士などが集まっておこなうクリスマスパーティや卒業祝いなどの饗宴がある。これらを全てあわせると、饗宴の回数は相当なものとなる。後の節では、これらのうち最も規模の大きい2つの年中行事、新年を祝うアソ・ラシと女の日アソ・ファフィネ、それぞれの饗宴について、詳しく見ていくこととする。

4. 饗宴の具体的事例

4-1. 事例1：アソ・ラシ——クリスマスと新年を祝う饗宴

クリスマスから新年にかけて催されるアソ・ラシは、別名ファカアラ・オ・フェヌア *fakaala o fenua* =島の饗宴とも呼ばれる。年中行事の中で最も長期間にわたり、島のほとんどの人口が直接、間接的にかかわる饗宴である。何日間続けられるかはその時のアリキ（チーフ）たちの判断であるが、たいしては新年を迎えてからも1～2週間続けられる。11月末頃になると、学校や仕事のため他島へ行っていた家族や、海外に移住した人々が里帰りし、島はしだいにクリスマスモードに包まれ始める。離島でのクリスマスと新年を楽しむために、遠い親族を頼って初めてニウタオにやって来る人もいる。以下では、2007年末から2008年にかけて催されたアソ・ラシ饗宴を詳しく見ていく。

12月25日はアソ・ラシの始まりの日であり、一年で最も島が活気に満ちる日である。教会でのミサが終わった午前10時半頃、人々はそれぞれ世帯ごとに食事、飲み物、食器などを持って集落の中心にある集会所へと集まってくる。集会所での饗宴の際は原則、男性は襟付きのシャツと、スルと呼ばれる腰布カラバラバと呼ばれる巻きスカート、女性はワンピースかツーピースのドレスを身に着ける。皆普段とは異なるよそ行きの格好をしており、集会所内は華やかな雰囲気にも包まれる。後で詳しく見ていくが、集会所内での座る位置は決められており、世帯主が柱の内側に座りその後ろに妻や子どもたちが座る。前面に座っているのはほとんどが男性である。

大方の人がそろったところで、最高位アリキの隣に座っている司会進行役のアリキが立ち上がり、饗宴の開始を告げる。女性たちは持参した食事、食器をそれぞれ世帯主の前に

置く。牧師が立ち上がり祈りの言葉を捧げる間、皆物音を立てずじっと目を閉じている。祈りが終わると再びアリキが立ち上がり、食事を始めるよう告げる。前面に座る世帯主たちは隣と会話をしたり料理を交換したりしながら食事をするが、大声で話したり笑うことはなく、粛々と食事をしている。女性たちは世帯主の手元をうちわで扇いで蠅を追い、食事が終わるとすぐに料理と食器を下げ、手水とタオルを差し出す。前面に座るすべての人の食事が終わると、アリキが立ち上がり、スピーチを促す。前面に座る人々がスピーチをしている間、後ろに座る女性や子供たちが食事をする番となる。隣り合う世帯同士が寄り集まり、料理を交換しあいながら、こちらは和気あいあいとした雰囲気である。スピーチの邪魔になるほどの話し声を思わず出してしまい、周りからたしなめられるようなこともある。

スピーチが大方済むと、司会進行役のアリキが休憩を告げ、人々はタバコやトイレに立つ。そしてこの後おこなわれる、ファテレ *fatele* と呼ばれる伝統ダンスの準備に取り掛かる。ニウタオのクリスマスは、テアバ対クリアでファテレを踊り競い合う「ファテレ合戦」の日でもある。この日に踊られるのは10曲ずつで、すべてこの日のために新たに創作されたものである。それぞれの集会所では、2週間ほど前からファテレの練習が毎夜おこなわれてきた。踊り手の女性たちはこの時のために新調したそろいの衣装に着替え、パンダナスの葉などで作られたカウチチと呼ばれる腰蓑を着け、花冠、首飾り、化粧などで着飾り、集会所内に整然と並んで座る。

テアバ、クリア両グループの歌い手、踊り手たちがそろったところで、司会進行役のアリキが立ち上がり、本日のファテレ合戦の流れを告げる。集会所内は静まり返り、緊張感に包まれている。両グループが交互にファテレを披露する間、集会所内は熱気と歓喜に包まれる。そして10曲ずつ終わったのちアリキたちによってどちらのグループのファテレが良かったか、採点結果が発表され、それぞれに賞金が手渡される。2007年のクリスマスの際はクリア側が勝利し400ドルが贈られた。負けた方のテアバ側にも350ドルが贈られた。この現金は、アソ・ラシを盛り上げたことに対するアリキたちからの返礼として贈られたものである。ファテレの合間と終了後にもスピーチがおこなわれ、立ち上がってスピーチをする人がもういないと判断された頃合いを見計らって、アリキが終了、解散を告げる。

午後3時頃、集会所内はいったん解散となったが、集会所の隣に広がるマラエ *malae* と呼ばれる広場で、テアバ対クリアに分かれ、今度はテアノ *te ano*¹³ というツバル独特の球技が始められる。集会所やマラエの周辺にはこのゲームを観戦するために島中の人が集まってきている。しばらくすると主婦たちは、夜の饗宴の食事を用意するために家に帰る。若者たちも家畜の世話などの仕事があるため、いつまでも球技に興じているわけには

¹³ 2チームに分かれて、パンダナスの葉を堅く巻いた球を打ち合う。球が当たるとあざができるほど痛い、女性や老人も好んで参加する。

いかない。6時頃には勝敗を決し、解散となる。

そして翌日から人々は朝、昼、晩と毎日集会所に集まり共に食事をする。食事の後は必ずスピーチがあり、夜はファテレを楽しむ。マラエでは若者たちがクリケットやアノの試合をし、観客たちを楽しませる。日曜日はスポーツやファテレは禁止されているため、讚美歌の合唱をする。このような饗宴が数週間におよび毎日おこなわれる。

4-2. アソ・ラシにかんするまとめ

アソ・ラシの場合、集会所内での座る場所は決められている。図3中の四角は柱を表す。楕円は最高位アリキのみが座れる場所にある石を表す。①は最高位アリキ、②は牧師、③は村長を示す。①と③の間に3人のアリキたちが座る。③と次の柱までの間に4人の村議会議員が座る。図左側にはテアバの成員世帯、右側にはクリアの成員世帯が座る。この位置関係は地図上の地域区分をなぞらえるものとなっている。いずれも柱の内側には世帯主が座り、その後ろに妻と子供、孫たちが座る。

2007年12月から2008年1月にかけておこなわれた、このクリスマスと新年を祝う饗宴の半月ほどの期間中には、1051匹の外洋魚と2240匹のリーフフィッシュと2710匹のカニが捕獲され、饗宴に供された。それらは饗宴の参加者に分配され、消費された。カニとリーフフィッシュの捕獲はクリケットの敗者チームにペナルティとして科されたものである。外洋魚はチーフたちに依頼された漁の名人たちがとってきたもので、毎回誰が何匹とってきたか饗宴のなかで発表された。

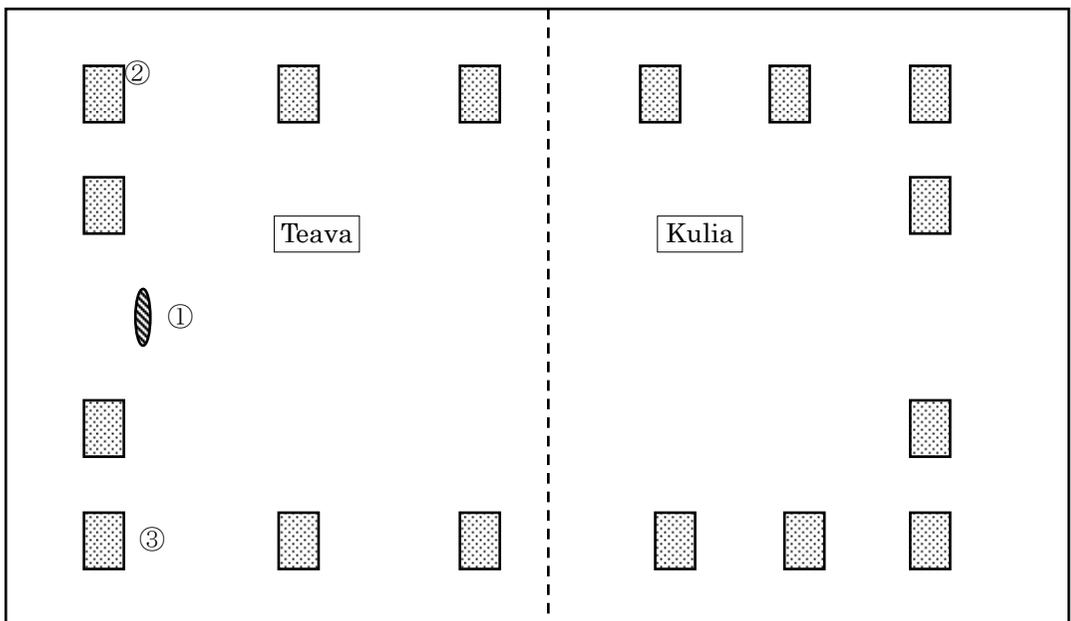


図3：ニウタオ・ファレカウプレ内座席 (■は柱)

これらの魚やカニの分配の役割を担っているのは、テアファー Teafa とウルカイ Ulukai という2つのクランの成人男性成員である。テアファーとウルカイクランは古くはチーフの食事の世話をする役割であった。この他にチーフの護衛の役割、土地の管理の役割などを担うクランがある。しかし、これらのクランの役割は、現代の日常生活ではまったく表に現れることはないもので、このアソ・ラシのような大規模な饗宴においてのみ表出されるのである。

4-3. 事例2：アソ・ファフィネ——女の日の饗宴

女の日の饗宴は毎年2月の第一水曜から翌週土曜までの11日間行われる年中行事で、その名の通り女性が主役である。その起源や歴史は定かではないが、40代女性によると、彼女が子供のときにはすでに島の伝統行事として存在していたそうである。女性コミュニティの事務局が運営し、参加者はツバル国教会の信者のみであるが、島内のほとんどの女性が集まり、島全体の集会所で盛大におこなわれる。1月末頃には女性たちはこの饗宴の話題で盛り上がり、共食の際必要となるジャガイモやアヒルなどの食材のチェックに余念がない。なかには、この饗宴のために普段居住している首都から、故郷の島へ里帰りする者もいる。

女の日の饗宴は水曜朝の教会でのミサで開始される。女性たちは全員まっ白な教会用のドレスを身につける。その後、島全体の集会所であるファレカウプレに集合し、それぞれ持ち寄った食事を世帯ごとあるいは隣り合った者同士で食べる。この共食は最終日の昼食まで毎日毎食続き、期間中事務局や年配の女性たちはほとんど家に帰らずに集会所で過ごす。食事の内容は「一人につきジャガイモ5個とアヒル1羽」、「パンケーキとミルクティー」など決められていることもあり、それを満たしていない場合は罰ゲームが科せられる。食事の後はスピーチ、歌、踊り、ゲームなどがおこなわれる。ゲームで負けたチームは翌日の全員分の朝食を用意させられることもあるため気が抜けない。このような罰ゲームは饗宴の重要な遊びの要素であり、食事の用意を科された人々は我が家の食料と財産を削り、翌朝の食事が盛り上がるよう苦心する。

またこの饗宴は女性コミュニティの集金の機会でもある。「踊りが盛り上がった」、「もう1曲歌いたい」など様々に理由をつけてはスピーチをし、そのたびに「5ドル!」「20ドル!!」などと高らかに宣言し、寄付をする。また歌や踊りが始まると前にボウルが置かれ、コインが投げ入れられる。それらはすべて書記係が記録しており、每晚最後に総額が発表される。

女の日の饗宴期間中、集会所（ファレカウプレ）は「女の家」と呼ばれ、男性は原則入ってはならない。女性たちが饗宴を楽しむ間男性たちはクリア¹⁴、テアバそれぞれの集会所に集まり魚や鳥を捕り、調理して女性たちのいる集会所へと届ける。女性たちへの贈

¹⁴ クリア側のマネアバはないためジャーマニのマネアバが使用される。

り物を携えてきた時のみ「女の家」内への立ち入りが許され、男性たちはファテレを歌いながら入ってくる。魚や鳥に加え現金が女性コミュニティへと贈られることもある。返礼に女性コミュニティからはタバコが贈られる。またこれに前後して女性たちは男性たちのための食事を用意し、クリア、テアバ双方の集会所へと集団で持っていく。このとき、クリア、テアバの各集会所は「男の家」と呼ばれる。女性たちはスピーチのみで「女の家」に戻ってくる場合もあるが、たいていはファテレを歌い踊る。このように男性たちの待つ「男の家」へ行きファテレをすることを「遊び *tafao*」と表現する。同様に男性たちが「女の家」へ行きファテレをすることも「遊び」と表現される。この「遊び」の訪問は必ず集団によっておこなわれ、男性が個人的に「女の家」に近づくことはない。この遊びの応酬は饗宴の最終日に近づくにつれ回数を増し、熱気を帯びてくる。そして全員が踊り疲れたところにフィナーレを迎える。

4-4. アソ・ファフィネにかんするまとめ

この女の日の饗宴の11日間で捕獲された魚、鳥の数と、集まったお金は表2のとおりである。女性コミュニティに寄付された現金の総額は6594.99豪ドルとなった。一世帯平均でおおよそ46豪ドルが寄付されたことになる。このお金はニウタオの女性コミュニティ名義の銀行口座に預けられ、島全体の行事や教会などのために必要になった場合引き出される。またこのお金を資本としてローンの貸し出しもおこなわれている。一方、お金以外のものは全て平等に分配される。分配の作業をおこなうのは、その場にいる女性たちの中で作業に慣れている人や手のあいている人であり、誰がしなければならないかは決められていない。

表2：11日間の女の日の饗宴で捕獲された魚や鳥の数と集まったお金

	カツオ、マグロ	それ以外の魚	鳥	ブタ	現金
クリア男性	1939尾	288匹	713羽	11頭	1104.05豪ドル
テアバ男性	2424尾	82匹	481羽		1648.00豪ドル
女性					3842.94豪ドル
計	4363尾	370匹	1194羽	11頭	6594.99豪ドル

集会所内での座る位置は住居の位置に依っている。つまり、集会所に6つある入口のうち、自分の家から最も近い入口の近くに座る。クリスマスと新年を祝うアソ・ラシ饗宴でチーフや牧師、村議会議員たちが座っていた位置には、実行委員である女性コミュニティの事務局メンバーと牧師の妻が座る。ただし最高位チーフが座る位置には誰も座らない。その他の参加者たちは、年齢や既婚、未婚の区別なく全員が柱の内側に座る。

5. おわりに

このようにアソ・ラシ饗宴では、集会所内での座る位置によって、島内での秩序関係が可視化され、確認される。集会所では自分の座ってよい場所は限られている。そこに座っているべき人がいない場合には、様々な憶測や噂がなされる。牧師といえども、遅刻や欠席をした場合は手厳しい批判が待っている。また共食の際はそれぞれの料理や皿、コップまでが集会所にいる全員の目に晒される。女性たちはそれらを「恥ずかしくない」よう揃え、1日3度、重いバスケットを下げて饗宴に向かう。またこの饗宴では、チーフから参加者に食料が分配されるという場面において、日常は意識することのないクランの存在が表出する。

一方で、アソ・ファフィネ饗宴では、アソ・ラシ饗宴とは逆に、島内の秩序関係が見えにくくなるのがわかる。集会所内での座る位置は住居の位置に依っており、参加者全員が前面に座り、全員同時に食事を始める。食事の内容は決められている。このように女性たちの饗宴では、チーフ制度や議会制度といった島内の秩序関係や、クラン関係、親族間の貧富の差などが表出しないような仕組みになっていると言える。

饗宴では大量の食料を一時に消費することを伴う。このような饗宴をいくつもこなすには、島内の親族だけでなく、島外、海外にひろがる親族ネットワークからの協力が必要不可欠である。いかにしてこのような大規模な饗宴が数多くおこなわれているのか。そしてこのような饗宴が社会の中でどのような現代的意味を持つものなのか。このことは、ニウタオの現在を理解する上で重要な視点を与えてくれると思われる。今後は海外送金の影響もふまえて、島社会における饗宴の意味について研究していきたい。

【参考文献】

Chambers, Anne

1984 *Nanumea. Atoll Economy: Social Change in Kiribati and Tuvalu 6.*
Development Studies Centre, Australian National University.

近森正

2008a 「地球温暖化でツバルの島は沈むか？」『三田評論』6: 56-61。

2008b 「サンゴ礁の暮らしに学ぶ一環礁の民族学と考古学」『日本サンゴ礁学会誌』10:
87-92。

Connell, J.

2003 "Losing ground? : Tuvalu, the greenhouse effect and the garbage can." *Asia Pacific Viewpoint* 44-2: 89-107.

印東道子

2000 「先史時代のオセアニア」山本真鳥（編）『オセアニア史』17-45、山川出版社。

Jackson, Geoffrey W.

2001 *Tuvaluan dictionary: Tuvaluan—English, English—Tuvaluan.* Oceania Printers.

片山一道

2002 『海のモンゴロイド—ポリネシア人の祖先をもとめて』吉川弘文館。

風間計博

2003 『窮乏の民族誌—中部太平洋・キリバス南部環礁の社会生活』大学教育出版会。

小林泉

2008 「水没国家ツバルの真実」『国際開発ジャーナル』622: 36-37, 623: 52-53, 624: 36-37。

小林誠

2008a 「『科学的』な言説の受容の多様性—ツバルにおける海面上昇の語りを事例に」『オセアニア学会NEWSLETTER』90: 1-11。

2008b 「地球温暖化言説とツバル—海面上昇に関する語りと認識をめぐって」『社会人類学年報』34: 159-176。

Mellor, C.S.

2003 "An economic survey of Tuvalu." *Pacific Economic Bulletin* 18(2): 20-28

Noricks, J.S.

1983 "Unrestricted Cognatic Descent and Corporateness on Niutao, a Polynesian Islands of Tuvalu." *American Ethnologist* 571-584.

Secretariat of the Pacific Community (SPC)

2004 *Tuvalu 2002 Population and Housing Census: Administrative Report and Basic Tables.*

2005a *Tuvalu 2002 population and Housing Census 1: Analytical Report.*

2005b *Tuvalu 2002 population and Housing Census 2: Demographic Profile, 1991-2002.*

Simati Faaniu and others.

1983 *Tuvalu A History.* Institute of Pacific Studies, University of the South Pacific.

Yamano, H., H. Kayane, T. Yamaguchi, Y. Kuwahara, H. Yokoki, H. Shimazaki, and M. Chikamori

2007 "Atoll island vulnerability to flooding and inundation revealed by historical reconstruction: Fongafale Islet, Funafuti Atoll, Tuvalu." *Global and Planetary Change* 57: 407-416.